

## 地域への愛情と客観的視野

山 鹿 誠 次

昭和47年から施行される中学校の社会科新学習指導要領では、従来「郷土」として扱っていた地域を「身近な地域」とし、その見方や取扱い方を改めている。この改訂のねらいはいろいろあるが、従来の郷土学習が方法概念と目的概念を並列して両者に同様のウエイトをかけていたのに対し、改訂では方法概念を重視し、地理学習の導入としての性格を強めたことが一つの特色とされている。

このような変化の背景としては、人口移動のはげしい現代社会において、郷土という範囲がとらえにくくなったこと、郷土といえは何かお国自慢的な狭量な見方にとられるおそれがあることに對し、より広い立場から身近な地域をながめることが重視されてきたためである。現代社会では身近な狭い地域においても、国全体、世界全体の動きのなかで、その一部分として諸現象が展開する。それは歴史学で郷土史といわず地方史と呼ぶようになったのと同じ考え方である。その点で、身近な地域を広い範囲の中から、換言すれば客観的な視野でみなおすことが要請されてきたのである。

以上のような傾向は、私たちが近年関係をもっている地域診断、地域計画などにも共通の問題である。ある都市とか県などで地域計画を立てる際に、その地域の特定の関係者だけで考えると、古い地域的制約にしばられたりして、自由な新しい発想が生れにくいことがある。その際他地域の事情にもくわしい広い視野をもった立場の人を加えると、その地域を客観的に見て、新しい考え方が期待できる。地域診断や地域計画に他地域の学識経験者などが参与する意義はそこにある。最近編さんされた市誌(史)の類にも、旧来の狭い郷土誌(史)的立場から脱却して、広い視野と高い学問的水準をもった市誌(史)類が生れつつあるのも、同様の意味があるといえよう。

しかしこのような地域の客観視は、他方において地域を余りにも冷静に見すぎて生き生きとした感情が失なわれることがないとはいえない。その点では旧来の郷土愛のような、対象地域への愛情も必要になってくる。対象地域に愛着をもち、心をこめて地域の分析にあたり、将来の望ましい姿を希求することが、生きた地域研究や地域計画の重要な要件と思われる。このような地域への愛情が教育面でも必要なことはいうまでもなく、教師が取扱う地域に強い熱意をもってとりくむことが、生徒に地理への興味を育てるもととなる。私事にわたって恐縮であるが、私個人も下町に生れ山手で育って、東京への強い関心をもつことが都市地理一般の研究に入る基盤となり、またいま武蔵

野の一隅に住んで都市近郊の問題に取り組む動因となっている。望むらくは、できるだけ広い視野で身近な現象を拡大し、より高次のものへと導くべく、さらに努力を重ねたいと念じている。

## 日 記 帳

有 末 武 夫

14才のころ(高等小学2年)冬休の宿題として、毎日日記を書くことが課せられ、休み明けの教室で、各自の書いた日記の一節を読まされたことがあった。最初に私があたって、「朝おきて、顔を洗って、ごはんを食べて、少し勉強して、……夜はかるた取りをして、寝ました。」というような内容を読み上げた。その時先生が何といったかは全然覚えていない。次にあたった子は胸を張って読んだ。

「今日、僕は友だちにうそをいってしまった。××の宮さまは、生まれてから一度もうそをいわれたことがないそうです。僕もこれからは宮さまにならって、うそをいわないと決心しました。」

実はこの通りの文章が少年倶楽部の新年号のふろくの日記帳に、記入例としてのっていたのである。昭和初期の北海道の片いなかのことで、少年倶楽部をとっている子はほとんどいなかった。私はふろくの模型ほしさに、家人に内緒で新年号だけ買ったように記憶している。それはともかくとして、先生がその子に「友だち」とは誰か、「うそ」とはどんなうそかを追求してくれたら、日記帳のうそがばれるのに、と心ひそかに期待していた。ところが先生は逆に「自分の悪かったことを正直に日記に書くことはたいへんよろしい。日記とはこういうふうを書くものです。」と賞賛した。もともと引込み思案の私は、少年倶楽部の日記の模範文に、その通りの文がのっていたことを発言する勇気はなかったが、先生のいうことも信用できないものだと思ったことは事実である。

このときのくやしさが、私に「他人に読んで聞かせる日記」ではない、「自分で読みかえす日記」を書き続けさせている、といえはオーバーだが、小学校卒業以来、大体现在まで日記は継続されている。私の日記はきわめて簡単で、毎日自分のしたことを書きつけるだけである。それだけに2年前、3年前の今日をふりかえるときにはじめて面白味をもつ。昭和13年ごろ3年連用日記をみつけて、以後これを愛用していたが、東京オリンピックの5年前に、オリンピック目標の5年連用日記というのを買った。その後は大型の日記帳の1日分を5分割して5年間使ってみた。こうすると日記を書くたびに2年前・3年前の記事が目につれて、過去を楽しむ年寄りにとって日記を書く